



第73回 人権週間行事 in オンライン

講演と映画のつどい **無料**

オンライン講演会

見逃し配信あり 申し込み不要

病気になるのは悪いこと？

～コロナ時代で見えてきた共存のヒント～

▶ライブ配信 (YouTube Live)

12/11 (土) 14:00 ~ 15:40

見逃し配信期間

12/11(土)講演終了後 ~ 12/26(日)まで



【講師】

もり みつ れ お
森光玲雄さん諏訪赤十字病院臨床心理課長、
人道支援実践家、臨床心理士

日本人臨床心理士として初めて赤十字の海外支援事業に派遣された、国際人道支援における心理社会的支援の第一人者。「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう～負のスパイラルを断ち切るために～」[ウイルスの次にやってくるもの](日本赤十字)を監修。新型コロナウイルス感染拡大によって引き起こされる差別や社会の分断について、警鐘を鳴らしている。

視聴
方法

開始時間になりましたら下記URL(または二次元コード)より視聴いただけます。
※事前のお申し込みは不要です。どなたでもご覧いただけます。

ご視聴はこちらから

配信期間中であれば以下のホームページからどなたでもご覧いただけます。

【第73回人権週間行事講演と映画のつどいホームページ】
<https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e009/kurashi/jinken/jinken/eventannai.html>

江戸川区 人権週間行事

検索



オンライン映画会

定員80名程度 事前申し込み制

『戦火のランナー』

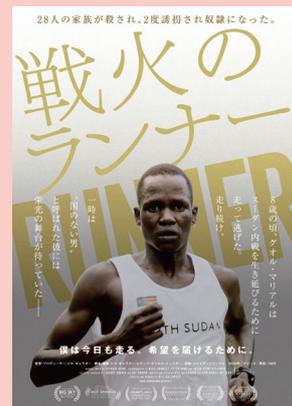
日本語字幕

▶オンライン上映 (Zoom)

12/4(土) 14:00 ~ 15:30

申し込み期限

11/28(日)まで (80名程度、先着順)



(2020年/アメリカ/88分)
監督・プロデューサー：ビル・ギャラガー
脚本・編集：ビル・ギャラガー
エリック・ダニエル・メツガー
配給：ユナイテッドピープル

視聴
方法

Zoom(ウェブ会議システム)にて上映します。
お申し込みは東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県、山梨県に在住の方に限ります。
※見逃し配信はありません。

お申し込みはこちらから

以下のホームページからお申し込みください。お申し込みいただいたメールアドレス宛に動画視聴のためのURLを送付します。

【東京共同電子申請・届出サービス】
<https://www.shinsei.elg-front.jp/tokyo2/navi/proclnfSmart.do?govCode=13123&procCode=11006528>



主催：江戸川区 協力：人権擁護委員(江戸川地区)

問い合わせ先：江戸川区総務部総務課人権啓発係 電話：03-6638-8089 FAX：03-6231-8171

江戸川区瑞江2-9-15 人権・男女共同参画推進センター (受付時間：8:30~17:00)

12月4日から10日は **人権週間** です。

人権の尊重、それは誰もが幸せに生きていくために必要なものです。しかし、今なお、私たちの社会には差別や人権侵害があります。部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくすためには、私たち一人ひとりが自分のこととして考え、行動していくことが大切です。

「第73回人権週間」 啓発事項

- 女性の人権を守ろう
- 子どもの人権を守ろう
- 高齢者の人権を守ろう
- 障害を理由とする偏見や差別をなくそう
- 部落差別（同和問題）を解消しよう
- アイヌの人々に対する偏見や差別をなくそう
- 外国人の人権を尊重しよう
- 感染症に関連する偏見や差別をなくそう
- ハンセン病患者・元患者・その家族に対する偏見や差別をなくそう
- 刑を終えて出所した人に対する偏見や差別をなくそう
- 犯罪被害者とその家族の人権に配慮しよう
- インターネットによる人権侵害をなくそう
- 北朝鮮当局による人権侵害問題に対する認識を深めよう
- ホームレスに対する偏見や差別をなくそう
- 性的指向及び性自認（性同一性）を理由とする偏見や差別をなくそう
- 人身取引をなくそう
- 東日本大震災に起因する偏見や差別をなくそう



映画紹介

「戦火のランナー」 (2020年/アメリカ/88分) 文部科学省選定

戦争の続くスーダンはどこもが戦場で、子どもはさらわれ、家は燃やされていた。8歳のグオル・マリアルの命を守るために、両親は苦悩の末、彼を村からたった一人で逃がすことにした。戦場をさまよい歩くグオルはやがて武装勢力に捕まってしまう。“逃げよう”。

彼は夜明け前、走って逃げることに成功する。幸運にも難民キャンプで保護された彼は、アメリカへ移民するチケットを手にする。“もう逃げなくていい”。高校に入学した彼は、走ると他を圧倒。初めて走ったマラソンで2012年ロンドン五輪出場資格を得る。

まるで走ることが彼の運命だったかのように――。

しかし、南スーダンが建国されたのはロンドン五輪開催の一年前。国内オリンピック委員会がなく、代表する国がなかった。出場が危ぶまれたが奇跡が起こる。国際オリンピック委員会（IOC）が“国のない男”といわれた彼の個人参加選手としての出場を認めたのだ。そして彼は、祖国南スーダンの人々の期待を背負い走り、完走する。不屈の精神で走り続けるグオルの人生に感動せずにはいられない感涙のドキュメンタリー。



©Bill Gallagher